

探す場所が重要

1. カマキリの卵囊



ハラビロカマキリの幼虫

打吹山で確認されているカマキリは、オオカマキリ、ハラビロカマキリ、コカマキリ、ヒメカマキリの4種で、その他に倉吉市内にはチョウセンカマキリ、鳥取県ではウスバカマキリ、ヒナカマキリがいます。森林内の落ち葉の上にいるヒナカマキリは今後発見が期待されます。ヒメカマキリは樹冠にいるため目につきにくく、残りの3種とはよく出会います。

卵を寒さから守るために断熱材で作る卵囊(らのう)は、それぞれの形態に特徴があり、付ける位置も異なります。草本の茎にチマキ型に付けるオオカマキリ、丸太や電柱のような広い平面に小判型に付けるハラビロカマキリ、石面などに逆涙滴型のコカマキリ、枝に同じ形のチョウセンカマキリ、樹皮の裏や石の隙間に小さい小判型のヒメカマキリ(地図中①地点 大江神社狛犬台座下)と卵囊を見れば種がわかります。



オオカマキリの卵囊



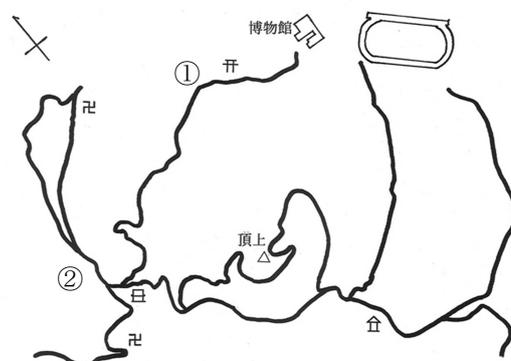
コカマキリの卵囊



ハラビロカマキリの卵囊



ヒメカマキリの卵囊



2. ナツハゼの実付き (地図中②地点)

打吹山にあるブルーベリーの間には、スノキとナツハゼ、シャシャンボがあります。スノキは夏に熟しますが量が少なく、秋も深まって熟す後2者のうち、実が大きく量も見込めるナツハゼが口にしたい果実です。

ナツハゼは全山に見ることができますが、開花はあっても実付きの善し悪しがあります。頂上南側には個体数は多いのですが、結実はよくありません。長谷の八十八ヶ所のように日当たりのよい場所が写真のような状態となり、植物にとって陽光がいかにか大切であるか示してくれています。生育可能な光量と十分に成長できる光量とは大きく異なっていて、植生や環境を見ながら探すことが大切です。

果実が未熟であると酸味が強いのですが、ヒヨドリは熟度をよく感知して食すので、毎日観察して先を越されることが肝要です。



ナツハゼの果実